

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成22年9月24日(2010.9.24)

【公表番号】特表2006-503149(P2006-503149A)

【公表日】平成18年1月26日(2006.1.26)

【年通号数】公開・登録公報2006-004

【出願番号】特願2004-544417(P2004-544417)

【国際特許分類】

C 0 9 B	47/26	(2006.01)
B 4 1 M	5/00	(2006.01)
C 0 9 B	67/44	(2006.01)
C 0 9 D	11/00	(2006.01)
B 4 1 J	2/01	(2006.01)

【F I】

C 0 9 B	47/26	C S P
B 4 1 M	5/00	E
C 0 9 B	67/44	A
C 0 9 D	11/00	
B 4 1 J	3/04	1 0 1 Y

【誤訳訂正書】

【提出日】平成22年8月5日(2010.8.5)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 1】

本発明は、インクジェット印刷方法、この方法で用いるに適切な組成物及びインク、これらの組成物及びインクを調製することができる新規な化合物、印刷された支持体及びインクジェットプリンターカートリッジに関する。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 2】

インクジェット印刷は、微小ノズルを支持体と接触させずに、インク滴が微小ノズルから支持体上に排出される非衝撃印刷技術である。

インクジェット印刷に用いられる染料及びインクには多くの厳しい性能が要求される。例えば、これらは、良好な耐水性、耐光性及び耐オゾン性及び光学密度を有するシャープで毛羽立ちのない像を与えることが望ましい。インクは、支持体に塗布されたときに染みを防止するために速乾性がしばしば必要とされるが、インクジェットノズルの先端での詰まり(クラスト)を形成すべきではない。クラストはプリンターを作動不能とするからである。インクは、分解したり、プリンターの微小ノズルを詰まらせるかもしれない沈殿を形成したりすることなく長時間の貯蔵安定性を有していなければならぬ。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0009】

のフタロシアニン核を表わし；

R^1 、 R^2 及び R^3 は独立にH又は場合によっては置換されている C_{1-4} -アルキルであり；

R^4 は場合によっては置換されている C_{1-4} -ヒドロキシアルキルであり；

x は0よりも大きく1.8よりも小さく；

y 及び z は共に0よりも大きく；

($x+y+z$)の和は2.4~4.5である)

の化合物及びその塩；及び

(b) 液体媒体

を含む組成物をインクジェットプリンターによって支持体上に塗布することを含む、支持体上に像を形成する方法が提供される。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0011

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0011】

支持体は、好ましくは、紙、プラスチック、繊維製品、金属又はガラスであり、より好ましくは紙、オーバーヘッドプロジェクター用スライド又は繊維製品、特に紙である。

好ましい紙は、普通紙、処理された紙(treated paper)又はコート紙であり、酸性紙、アルカリ性紙又は中性紙のいずれでもよい。

写真品質紙は特に好ましい。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0035

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0035】

水を含まない有機溶媒を含む液体媒体は、迅速な乾燥時間が必要とされる場合、特に疎水性・非吸水性支持体、例えばプラスチック、金属及びガラスに印刷する場合に、特に有用である。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0039

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0039】

好ましくは、組成物は、25において20cP未満の粘度を有し、より好ましくは10cP未満の粘度を有し、特に5cP未満の粘度を有する。これらの粘度の低い組成物は、インクジェットプリンターにより支持体に塗布するのに特に良好に適する。

【誤訳訂正7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0076

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0076】

[実施例34]

耐オゾン性

実施例インク1～16及び対照インクをCanon 5800TM IJプリンターを用いて種々の紙上に印刷した。次いで、Hampden Test Equipmentからのオゾン試験キャビネットを用いて、印刷した支持体でオゾン安定性評価を行った。試験は、オゾン1ppmの存在下で、40℃、相対湿度50%で24時間行った。印刷したインクの耐オゾン性は、Gretag MacBeth Spectrolinoを用いて、オゾン暴露の前後の光学密度の差により判定した。よって、%OD損失が低いほど耐オゾン性が優れている。結果を下記Table 2に示す。これらは、本発明の化合物に基づくインクが良好な耐オゾン性を示すことを明らかに示す。